

## 第4回町田市子どもの居場所づくり懇談会議事録（要旨）

日時	2008年11月21日 10:00～12:00
場所	町田市役所森野分庁舎2階第三会議室
出席者	長野座長、脇副座長、藺田委員、宮島委員、萩原委員、小澤委員、近藤委員、盛永委員、上田委員、福田委員、岩崎委員、安食委員、安藤教育部長、浅野子ども生活部長
傍聴者	3名

### 議題1 各地域の第2回地域会議の報告

座長： 懇談会も大体半分が終わった。地域会議も全4回のうちの2回が終わり、次回で收拾をつける方向に進めていくところである。  
まずは最初の議題として各地域の地域会議の報告をしてほしい。資料を踏まえて各地域5分程度でお願いしたい。

副座長： 町田地域の地域会議の報告をする。

今回は分科会形式で話し合いを行った。資料に4つの視点でまとめているので、それに基づいてかいつまんで報告したい。

マナーのない親が増えている。親がしっかりルールについて教え、他の子ども育てていくことが大事である。そういう声をかけてあげられるのが居場所として重要と思う。

子どもにとっては場所さえあればいい。今は制限がされ過ぎである。子どもには自由が先行するべきである。大人の思いと子どもの思いがあるが、大人が考えると硬くなり過ぎる。

今現在も、町田地域では工作教室、コミュニケーション委員会等色々な取り組みをしている。コミュニティを大切にしたい。

校長先生から、「こうやって各々が意見を持ち寄って話し合い、新たな意見がでてくる、有意義な会議だと思う。子どもと私達がどうやって心のありよう、社会のあり方を支えていくのか、早急に、真剣に考えていくときだと感じている」、という意見があった。

委員： 南地域の地域会議の報告をする。

活発な議論が交わされた。議論の内容をまとめると、場所を用意するだけでなく、子どもにとっての三間、すなわち、時間・空間・仲間、について考えていくことが大事ということである。先を見ていて印象的であった。

ただ校庭を開放するだけでなく、人ともまれていく力を育てる必要がある。世の中のルール等を教えていける場にしたい。そのためにプレーリーダーのような存在を置く必要がある。

南地区には囃子等の伝統芸能があるので親しませたい。  
子どものために色々な場があるといい。

委員： 鶴川地域の地域会議の報告をする。

鶴川地域では、学童の問題が多く出た。4年生以上の居場所がないということである。

地域の問題として、施設、公園、学校が遠い、ということがある。一度帰ってから遊びに行かせるのは心配である。つるっこ等に行けるバスが充実するとよい。

子どもの意見を聞いてそれを参考にできるとよい。

居場所は親の目から離れた場所がよい。子ども自身はどんな居場所にも適応すると思うので子どもの自立性を信じたい。

学童の子どもとしては、学童の友達だけでなく、学校の友達とも遊びたい、という話もある。

学校としては、場所の提供はよいが、人の問題がある、という意見があった。

地域会議の委員に会議の趣旨が伝わっていなかったのが反省点としてある。予算等の話になってしまう部分が多くあったので、修正していきたいと思う。

出席者はみな熱心であり、意見交換できる場があるのはいいことである。

委員： 忠生地域の地域会議の報告をする。

親の問題として、実際に子どもと向き合っている時間が十分でない、ということがある。昔はどの親も「ケガと弁当は自分持ち」という考えを持っていたが、今は周りの人に責任を押し付ける親が目立つ。子どもを信頼するのであれば、親も我慢して一緒に成長していかなければならない。

子どもがいる所は大人の居場所でもある、という意見が多かった。地域には色々な施設がある。集会所の利用等現状あるものを有効に使うことも重要である。

子ども達がどんな遊びをするのかを自由に決められるように考えてみたらどうだろう、という意見があった。

地域差がかなりあるということも感じた。遊べる場所も今ある場所を変えていけばよい、という地域である。大人が仲間作りをしているのと同時に子どもも仲間作りできるような場づくりが大切である。

子どもの居場所とは子どもがいる場全てであり、地域で子どもを育てていくという意識が大切であると思う。

委員： 堺地域の地域会議の報告をする。

大体他の地域と同じような意見がでた。家庭に居場所がないということも多くの人を感じている。家にないのに外にあるワケがない。親子間での話し合いがきちんとできていないのではないだろうか。それができていればよいと思う。

地域の人と子どもの話としては、ルールは学校で教えてくれないので、親や近所の人を教えていけば、地域にある居場所を子どもも上手に使えるのではないだろうか、という意見があった。

地域の見守り隊で登下校時の見守りをしているが、通学路だけでなく地域全体の見守りをできるとよい。私の地区では広範囲で日程を組み、パトロールしている。全体をしっかりと見守ることができれば子どもへの危険が減っていくと思う。地域住民と一緒に地域の見守りをしていくことが子どもの安全・安心につながっていくだろう。

禁止事項が多いので、子ども達は公園では不満足である。最低限のルールのみにし、規制緩和をすることが必要だと思う。堺地区には図書館がないので、読書、勉強等をする場を充実してほしい。

幼稚園で園庭開放をしているが、条件として親が責任を持つということがある。誓約書も書いてもらっている。危険の自己負担ということを守っていけば居場所もかなりあるのではないだろうか。

来春、相原子どもセンターが完成する。立派なものができるが、広い地域なので利用しづらい、という意見がある。相原、堺にコミュニティバスの利用を含め、施設を利用するための交通機関の整備を検討してほしい。それによって、現在ある場の有効活用にもつながると思う。

学校開放については責任の問題がついてまわる。あくまで自己責任で、ということ伝えていくべきだと思う。

今後は子どもの意見も聞かないといけない。次回までに各々子どもと話し合って出席してもらおうとよい。

## 議題2 協議

座長： 今の報告内容について質問はあるか。

質問はないようなので、次の議題として委員の意見交換に進みたい。

委員より話が出たが、地域会議の趣旨の確認、我々の立場についての念押しが必要である。多くの地域で、市への要望を出すような格好になってしまっている。地域会議は、多様な意見をまとめて提言していくための場である。学童を4年以上にも、という意見や校庭開放をお願いしたい、という意見もあるが、回答しにくい。最終的な市の見通しを聞いてくるので、改めて次回の地域会議までに行政サイドの意見を再確認して臨みたい、との判断に至った。

子ども生活部長： 意見を出してもらおう懇談の場である。文科省の出したプランを

附属資料として出したが、広く意見を聞いてその中で考えていければ、ということで懇談会はスタートしている。

地域の特性、課題を共通認識として持った上で、新たな試みの案が出てくるとよい、ということである。行政の出したプランについて審議してもらう場ではない。話し合いの元になる提案があるわけではない。

たとえば、予算については、新たなものについても一定の予算は計上されているが、具体的な使い道が決まっているわけではない。

4年生以上の子どもの問題についても、学童なのか、学童以外の子どもとの交流も必要なのか、等の意見を出してもらって共通認識を持ってもらう。話し合いの中で多様な意見について議論してもらう。新たにこういうことを始めたい、という意見が出たときに懇談会でどうまとめていくかも課題である。場合によっては市長との懇談の場も設定できると思う。

座長： 今の話について何か意見はあるか。

委員： 会議にはどうしよう会議とこうしよう会議の2種類がある。この懇談会、地域会議は、どうしよう会議である。自由に議論する場であり、地域にどのような意見があるかを確認する場である、ということなのだと思う。

座長： 多様な意見が展開されればよい。内容的には次回の地域会議が最終的なものになると思う。

委員： 4回目の地域会議はまとめということか。

座長： 4回目は各地域の意見を集約できるのが理想である。それに対して懇談できれば、と思っている。議論ではなく、各地域で出たものの報告をできれば、ということである。

委員： 懇談会は全7回、地域会議は全4回、来年の3月頃に結論を、ということで始まっているが、必ずしもそこまで出さなければいけないものではない、と思っている。それだけの短期間で結論を出せるのか、という意見もある。

座長： こういう意見が出された、という報告をするものであり、具体的な施策を求めるものではない。地域の意見の羅列をし、限られた期間でとりあえず終わりにする、というものであろう。

副座長： 結論はないと思う。これは長い流れの中の1つのできごと、という認

識でいる。

委員： 色々な見方があるので、1つ2つに集約できるわけではない。色々な意見が出るのは仕方ない。そこからどう具体化されるかは別の話であると思う。

委員： 自分で解決できない交通機関等の問題はどうか。市で解決してくれるのか、という意見もあった。他地域でも同じような意見が出ているのかな、と思う。地域が広範囲だと通うのも難しい。

学校については、使っているが、自分たちで管理を、というようにまとまっている。

座長： 懇談会委員としては、地域の問題点を上申します、という姿勢でよいだろう。

委員： 学校開放については、行っているところもいないところもあるが、PTAとしての参加には限界がある。人材確保に資金を充ててほしい、という意見があった。子育てをしている世代はいっぱいいっぱいである。

委員： みなさん責任感があるため、なかなか結論が出ない。次の人が今と同じ意見を持っているとは限らない。助けられ上手にならないといけないと思う。

委員： 南地域では中学生の居場所がないのではないか、という意見もあった。

委員： PTAから地区委員への参加が難しい、という話があった。現在の地区委員は子どもの面倒を見なくていい年配の人がやっている。PTAは子どもの居場所を作ってほしいと思っているのだろうか。

委員： 理想というものはあるが、とりあえず現状維持でよい、というのが現実だと思う。

委員： 今の状態で安全、安心なのであれば今のままでよいのではないか。

委員： 役員等でもやる人はいつも同じ人である。これ以上負担は増やしたくない、というのがお母さん方の現実である。

副座長： 先程助けられ上手に、という話があったが、これは付き合い上手、ということであると思う。

委員： 普段から付き合いがあれば近所同士で助け合える。周りに溶け込んでいくような雰囲気を作っていければよいと思う。

委員： 学校のPTAが子ども教室等についてどう考えているか、ということの集計のためのアンケートをすると、自由記載が多い。子どもの居場所について親がどの程度真剣に考えているかが伝わってくる。アンケートに答えてくれた人の数は647人中381人であり、59%の人が回答してくれた。地域と一緒に育てている、ということ強く感じる。参加できない方でも自分の考えを持っている。

一方、子どもの思いとしては学校で遊びたい、という意見が多い。子どもと親の意見が違うところもあるが、どちらも学校を中心に考えてはいるようだ。表面的な部分だけでは分からないことも多い。親も意外と冷たくないな、と感じた。

委員： 幼稚園だと居場所は必要だ、という親が多いが、自分に関わるという認識は薄い。頭にあるのは学校を使つての居場所だと思う。ボランティアを使つてのものであり、自分がやるならいらぬ、と思うのではないか。そういうものをやる人は決まっており、お母さんにやってもらう、となると問題があるだろう。とすれば人材としてはやはりボランティアということになる。地域の人意見も参考にするとボランティアのことについて考えるのにも役立つだろう。

世田谷区の新BOPは全学年対象であり、行政が全てやっているが、居場所がそこだけになってしまう。そこに行けない子どももいるのだから、色々な場所に色々な居場所があつていいと思う。

委員： 責任が重いと手伝えない。行ければ行く、でよいくらいの方が人は集まるのではないだろうか。時間等をきっちり決まられると手伝うのはきつい。お祭りのような自由参加のものであれば人は結構来る。

委員： 手伝いに来てくれれば、来たからには、という感じで色々やってくれる人は多い。

委員： サッカークラブでもPTAの力を借りているものといないものの2種類がある。親が中心となって運営されている「ボランティアサッカークラブ」と指導者がきちんとついている「サッカークラブ」である。「ボランティアサッカークラブ」の方が数的にも多い。そういうサッカークラブはお母さん方のお手伝いがないとやっていけない。

委員： 成瀬のサッカークラブはボランティアでやっている。お母さん方に聞くと、最初は負担だが、しばらくやっていると生活の一部になる、とい

うことである。卒業した子ども達も高校、大学と進んで後輩を育てる、というサイクルが自然とできている。子どもが卒業した後の保護者もサポートにまわってくれている。OBは地域の集まりにも顔を出し、お祭りの場外警備等もやってくれている。それが後輩への指導までつながっていく。

委員： 私の子どもは野球をやっている。スタッフは、全てボランティアである。子どもが好きで野球をやっているから親も手伝える。

居場所は町田全域が対象となるのであるからボランティアといっても考え方が違うと思う。

委員： 自分の子どもが行けばボランティアもやってくれる。市全体ということになると難しいと思う。

委員： スポーツクラブは子どもの成長が目に見える。居場所は遊びの場であり、一番大切なのは遊びを通した心の成長である。スポーツクラブは成果が分かりやすいので大人が夢中になるのも分かる。しかし、一番大事なものは心の成長を促す遊び場なのではないかと思う。

委員： 子どもが学童を卒業してからも来てくれる保護者の方がいるが、それは大人の居場所ともなっている。

委員： その様子を子ども達が見ていれば子ども同士もつながりを持てるようになるのではないか。

委員： そうなるくらい大人同士が近づくことが大事であろう。

### 議題3 地域会議の進め方について

座長： 予定の時間になった。現状の維持・充実もやぶさかではない。親同士のつながりも含め、自分の子どもがいる場所についてはケアされている。

地域ごとの共通理解ということでは、全体を見たときに居場所はどうか。そこを考えるのも地域会議である。より多面的な議論、意見を通し、次回の地域会議では受益方向ではなく、より広く考えたときに必要な居場所が具体性を持って出てくればよい。自分の立場が前面に出てくるが、地域全体を見ての考えが出てくるとよいと思う。共通理解・認識が出たときに地域会議の目的は果たされる。

地域会議の進め方、成果、その地域として具体的にどのような居場所があるとよいかというところまで結論付けられるとよい。

委員： 居場所の議論は小学生が対象ということによいか。

児童青少年課長： 中学生・高校生の場合は選択の余地があるが、小学生の場合は希望してもいけないということがあるので、小学生を念頭においてほしい。

座長： メインは小学生だが、地域性によっては中学生、保育園等、前後関係についての話が出てくるのを排除するものではない。

副座長： 中高生を巻き込むことも重要であるかもしれない。

委員： 小学生を中心に中学生の話等も出てくれば意見として聞いてくる、ということによいか。

児童青少年課長： 地域子ども教室に中高生がきて一緒に遊ぶ、ということも当然ありえる。

座長： 小学生中心の視点で次回の地域会議の進行をお願いしたい。

委員： 子どもの遊び場についてのアンケートより、地域子ども教室と学童の合同での学校の利用やたぬき山のような場所も検討してほしい、という意見があった。

座長： 小学生中心にそれぞれの地域でどのような居場所があるとよいか、ということ議論してほしい。何でも反対論は出てくるが、地域として一定の合意が認められるものがでてくればよい。  
なお、第6回の懇談会の日程について変更があるので確認をお願いする。

委員： 12月8日、9日のチーフ委員会議は両日行うのか。

座長： どちらかの1日、それもできるだけ短時間で、と考えている。  
必要に応じて地域担当で打ち合わせをお願いしたい。

以上